

言葉は人と人が歩み寄るための舟。今こそ言葉の力を信じたい。

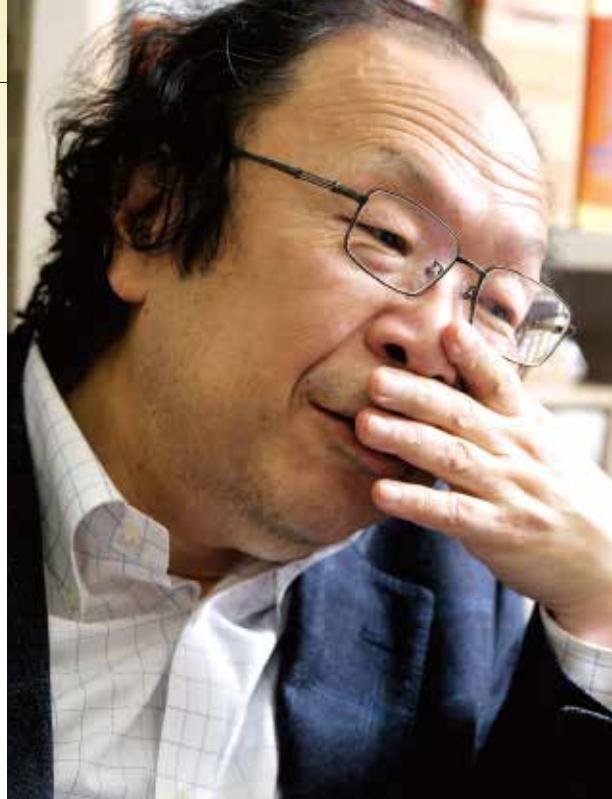
広告

映画公開記念特別対談

金田一秀穂さん × ロバート・キャンベルさん

(日本語学者)

(日本文学研究者)



言葉こそ、国の資源

言葉は、
翼を与えてくれる

金田一 辞書を作る映画といえば日本の「舟を編む」があつたけれど、この「博士と狂人」は150年前前にイギリスで「オックスフォード英語大辞典(OED)」を作った人たちの話で、しかも実話なんだね。

キャンベル 当時はフランス、イギリス、ドイツなどの列国がそれぞれ近代国家をつくり率制し合っていました。植民地の人々もその言語で教育しなければならない。そのためアイデンティティの核になるものが必要で、それが英語辞典でした。OEDはまさに國家の威信をかけたプロジェクトだったんです。

金田一 國家の基礎は言葉なのだ、ということがしっかりと描かれていて、感動したなあ。

キャンベル ちなみに日本で大槻文彦さんが『言海』に着手するのが明治8年(1875年)で、ほぼ同じ時期ですね。

金田一 でもね、日本人はどうも辞書作りをあまり重要視していないんです。国語辞典で「古」と「左」の違いを言葉を尽くして説明しても「そんなわかりきったこと、別にいいじゃん?」という感じ。

キャンベル 日本人が日本語を一度も手放していなじことがひとつ理由だと思います。統治や侵略で言葉が変わった経験をしていないから。だからこそ日本語は古い文献や書物が大量に、地層のように積み重なって残っている世界的にも珍しい「資源」なんです。

金田一 世界的に、ですか。

金田一 僕の祖父の京助も、父の春彦もそうでしたけど、國語辞典の言葉を集めることでなく「オタク」なんです。そういう人が家族にいるところは大変 笑)。

キャンベル 情熱とぶれない基軸を持つている人にしか務まらない仕事ですね。

「あきらめられない人」が、大事を成す

キャンベル はい。でも近代化によつて日本人は古語やくすし字を読むことができなくなってしまった。私が館長を務める国文学研究資料館ではいま、それらをデータベース化して解説し、世界に開放しようとしています。ロバート・キャンベルはあらがり出することで、先人がそれほどどう対峙し対処してきたかのヒントをもらえるんです。

19世紀、独学で言語学博士となったマレーは、オックスフォード大学で英語辞典編纂計画の中心にいた。シェイクスピアの時代まで遡りすべての言葉の変遷を収録するという無謀ともいえるプロジェクトが困難を極める中、博士に大量の資料を送ってきて協力者が現れる。その協力者は、殺人を犯し精神病院に収監されていたアメリカ人、マイナーだった。



オンラインにて対談 取材・構成 / 中村千晶

驚きが感動に変わる！衝撃を超えた奇跡の実話！

世界最大の辞典「オックスフォード英語大辞典」は、異端の学者と殺人犯によって作られた。

構想20年！
ベストセラーノンフィクション待望の映画化。

全米で大反響を呼んだノンフィクション本「博士と狂人」世界最高の辞書OEDの誕生秘話。1998年に刊行されると、その劇的なストーリーに魅せられたメル・ギブソンはすぐさま映画化に動き出す。自身の監督作ではマヤ文明の言語を再現するなど徹底したリアリティの追求で知られるメルは、「博士と狂人」にも強いこだわりをみせた。自身がマレー博士を演じ、相手役マイナーに羽田の矢を立てたのは役を生きることで知られる稀代の名優ショーン・ペン。

本物を追求する同世代俳優ふたりの初タッグ作になる。

アカデミー賞受賞俳優 初共演
メル・ギブソン × ショーン・ペン

『プレイブート』『ハクソー・リッジ』
『ミステイク・リバー』『ミルク』



PROFESSOR AND MADMAN

監督:P.B. シエムラン(「アボカド」脚本)
出演:メル・ギブソン、ショーン・ペン、ナタリードーマー、エディマーサン、スティーヴ・クーガン
原作:サイモン・ウインチエスター著「博士と狂人—世界最高の辞書OEDの誕生秘話」
(新木主税訳・ハヤカワノンフィクション文庫)

© 2016 Definition Delaware, LLC. All Rights Reserved.

提供:ボニーキャニオン、カルチュア・パリティーズ 配給:ボニーキャニオン

△ hakase-kyojin.jp

博士と狂人